



冬のダイヤモンドを見よう！
月のある日はスマホで月撮影も！



星空観察会のご案内

本日は国民宿舎小豆島をご利用いただき、まことにありがとうございます。

当館では、本日午後7時30分から午後8時00分頃まで、本館3階屋上において、移動用としては大型の天体望遠鏡を使った星空観察会を開催します。

冬は空が澄み切って、四季の中でも最も華やかな星空です。特に東の空から天頂にかけては数々の1等星が見られ、冬のダイヤモンドを形づくっています。

月が出ている夜は月もご覧いただけますが、双眼装置を使って両目で見る月のクレーターや山脈は大迫力で眼前に迫ってきます。上弦の月(半月)から満月の間は、スマホ限定とさせていただきますが、クレーターもはっきり写る写真を撮るサービスも行っていますし、運が良ければ流れ星も見られるかも？大勢の方のご参加をお待ちしております。

ご覧いただく予定の天体

オリオン大星雲

オリオン座の三ツ星の下に縦に小さな三ツ星があり、真ん中の星が肉眼でもにじんだように見えますが、これがオリオン大星雲です。天体望遠鏡で見ると、鳥が翼を広げたような形のガスと鋭い切れ込み、台形の四重星が見えますが、これが有名なトラペジウムです。星のゆりかごと呼ばれ、今まさに星が生まれている1700光年彼方の神秘的姿をぜひご覧ください。



星雲・星団

星雲にはガスが星の光によって照らされている散光星雲、星が爆発した後の姿である惑星状星雲があり、星団にはまばらな星の集まりである散開星団と、数万個以上の星がボール状に集まった球状星団があります。それぞれ大変淡い光であり、光を蓄積した天体写真とは比べるべくもありませんが、数千光年(1光年は約10兆キロ)から遠いものは数千万光年先にある天体を直接肉眼で見ることにまた別の趣があります。

冬の華やかな星空の中には数々の宝石のような星雲・星団が見られます。ぎょしゃ座の五角形の中の三者三様の散開星団M36、M37、M38、1054年に現れた超新星の残骸であるM1かに星雲、大型のふたご座M35などです。また、秋のアンドロメダ大銀河やペルセウス座二重星団などの大型の星雲・星団もまだまだ楽しめます。この機会に小豆島の美しい星空をぜひお持ち帰りください。